



噴火の概要

発生日時 1983年10月3日

噴火位置 雄山南西山麓

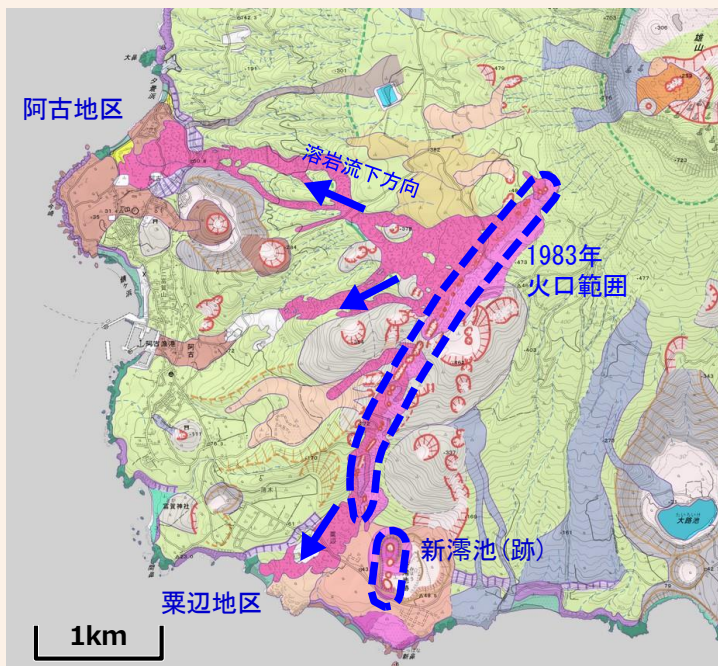
被害状況 15時23分頃、南西山腹に生じた割れ目から噴火し、溶岩が噴出・流下した。溶岩流は主に3方向に流れ、西方に流れたものは阿古地区の住家を埋没した。溶岩の流出は翌日早朝にはほぼ止まった。住宅の埋没・焼失約400棟。山林耕地等に被害。人的被害はなかった。

被害状況は気象庁ホームページによる。

火口位置

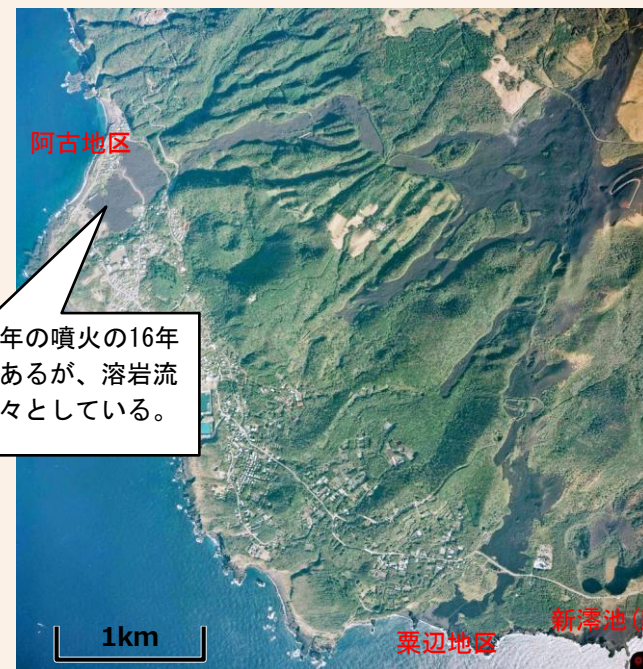
火山地形分類

データに追記



噴火後の空中写真

1999年12月9日撮影

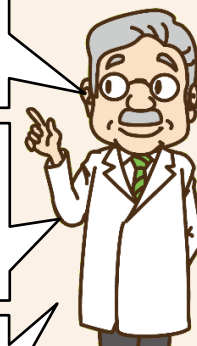


1983年の噴火の16年後であるが、溶岩流は黒々としている。

三宅島の山腹から噴出した溶岩が沿岸部の集落まで達して、住宅等の被害が約400棟に達したよ。

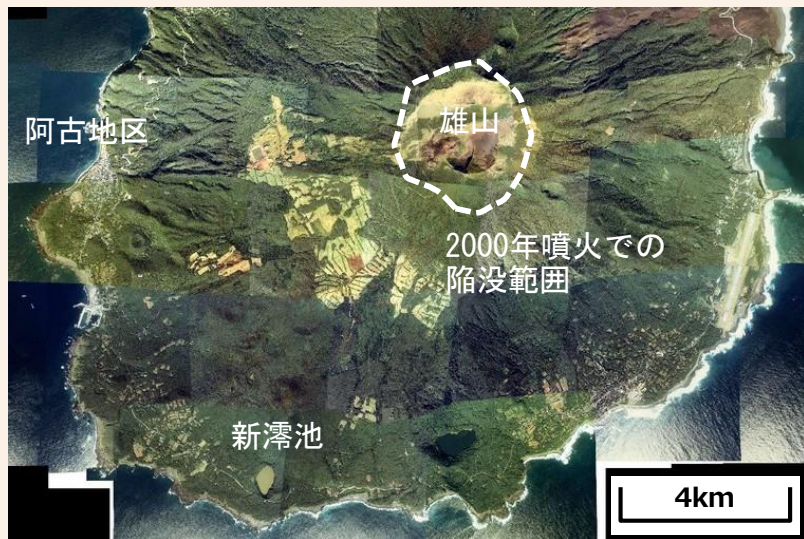
新瀨池付近とその南の新鼻の海岸付近では、マグマ水蒸気爆発が発生し、多量の岩塊が周辺に落下したよ。

このときは噴火の前後に101回の有感地震が発生して、3日の22時33分には震度5を記録する地震が起きたんだ。

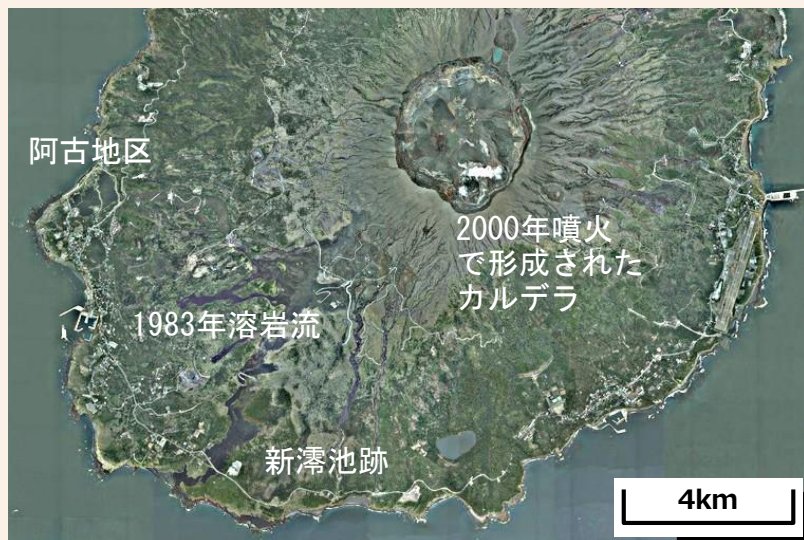




1970年代オルソ写真（地理院地図）



最新オルソ写真（地理院地図）



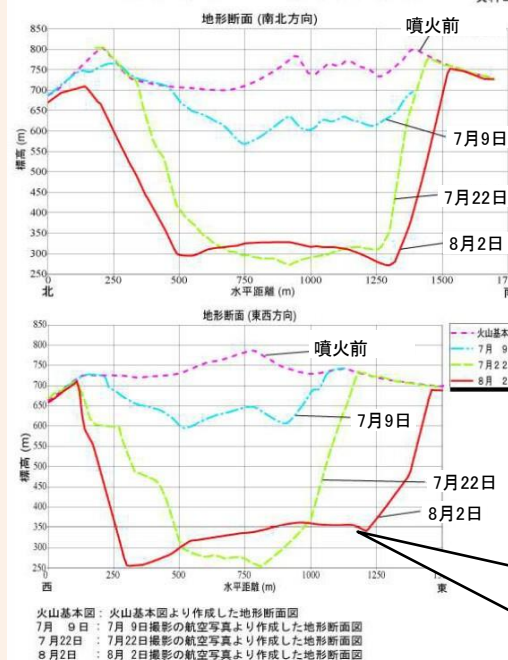
三宅島ではその後、2000年に活発な火山活動が起こり、島の中央部の雄山が7月8日に噴火するとともに山頂部は大きく陥没し、カルデラを形成したよ。降灰・泥流に加えて有毒火山ガスも長期にわたって発生したんだ。

このため、全島民が4年5ヶ月にわたって島外に避難したんだ。



雄山火口地形断面図

資料 2



噴火後半月ほどで、標高700～750mほどであった火口原が陥没して標高300～350mほどになっている。



噴火の概要

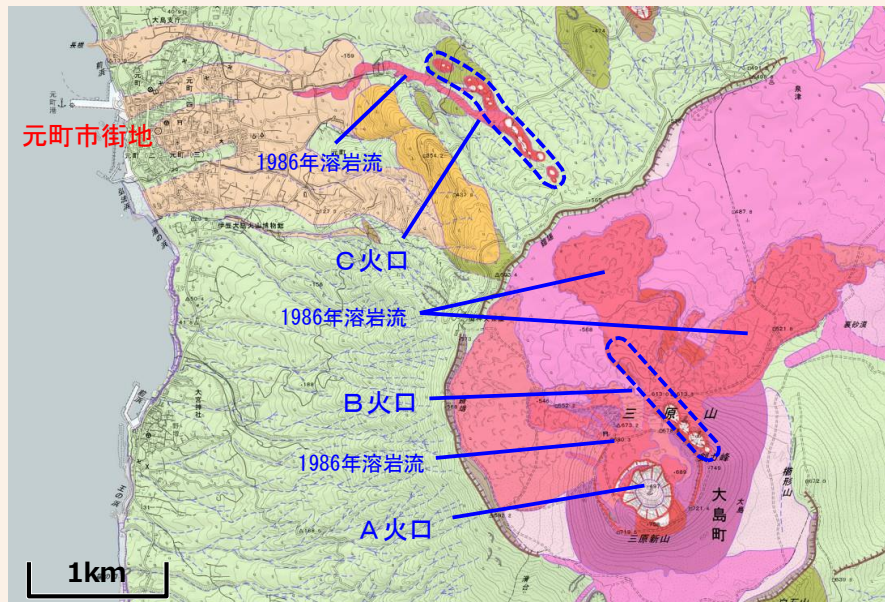
発生日時 1986年11月15日～23日、12月18日

噴火位置 山頂火口等

被害状況 12日南側火口壁で噴気はじまり、15日17時25分頃より噴火始まる(A火口)。19日に溶岩が火口から溢れ、カルデラ床に流下。21日16時15分頃にカルデラ床で割れ目噴火が始まり(B火口)、17時46分頃、外輪山外側でも割れ目噴火(C火口)が発生した。21日夜に全島民 1万人が島外へ避難(約1ヶ月)。。

被害状況は気象庁ホームページによる。

火口位置 火山地形分類データに追記

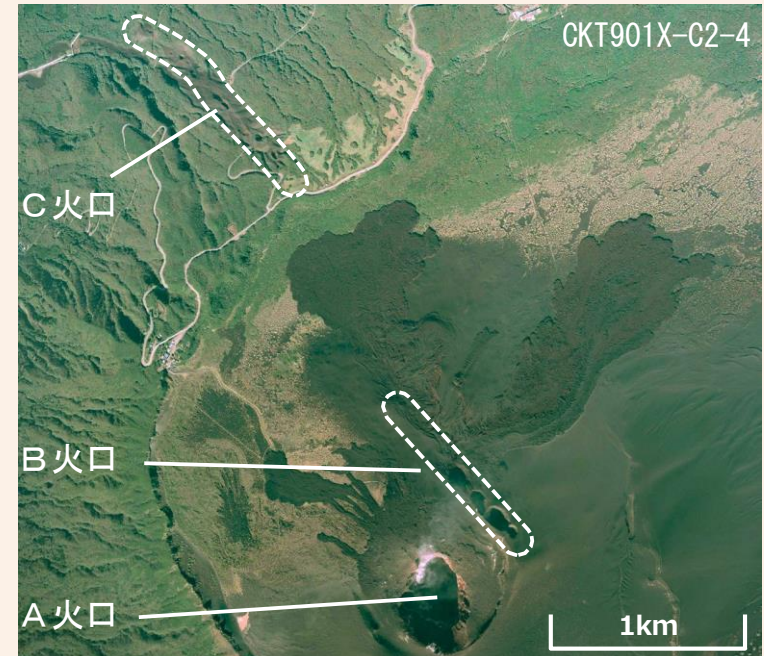


山頂火口の噴火が徐々に大きくなり、外輪山外側でも噴火が始まって、流下した溶岩流が元町市街地に達するおそれがあり全島避難となった。

伊豆諸島は火山の島がほとんどなので、旅行などの際は事前に火山活動について確認することも大事なんだ。

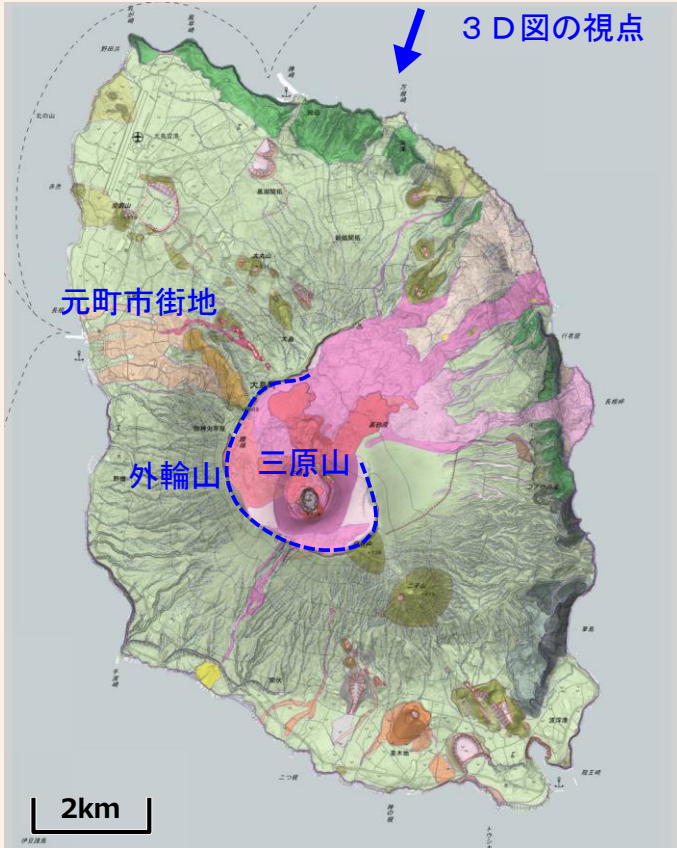


噴火後の空中写真 1990年11月5日撮影



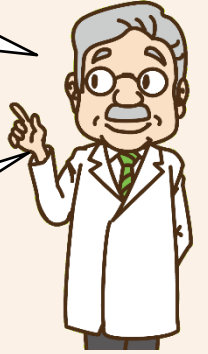


火山地形分類データ

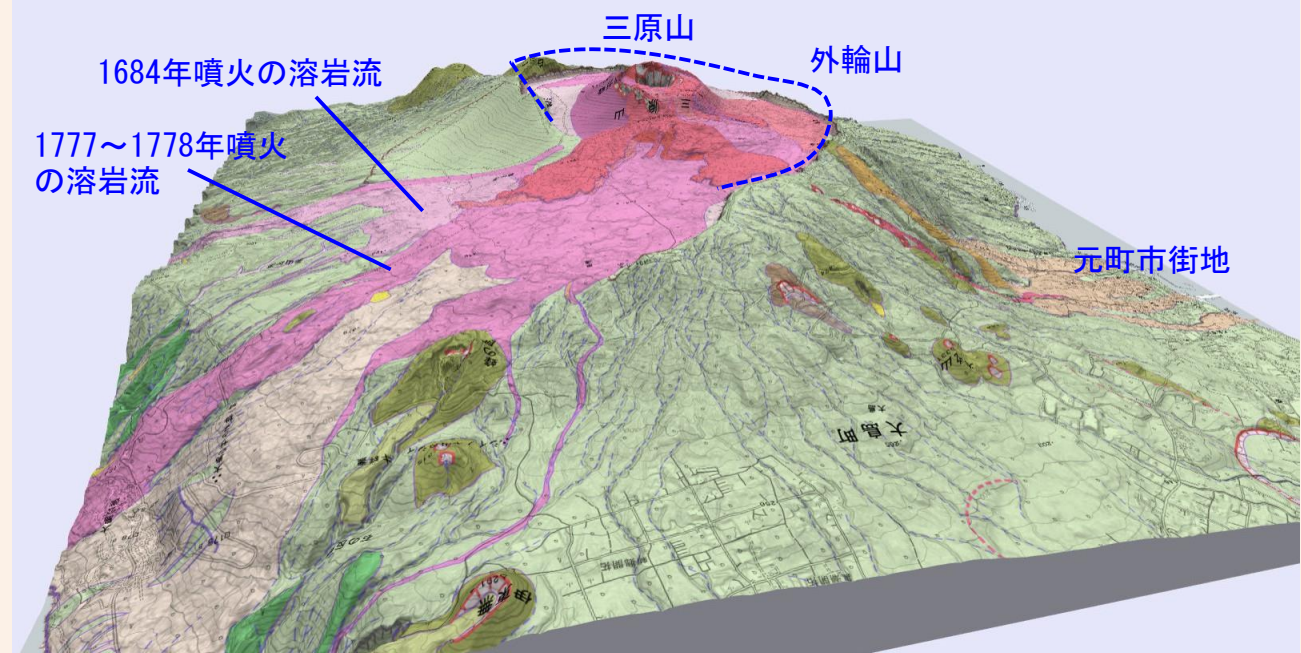


1986年の噴火では外輪山の外側に生じた火口から元町市街地方向に溶岩流が流れたが、山頂部のカルデラが東側に開いているので、東側へ流下するも多いんだ。

1684年や1777～1778年の噴火では溶岩流は東側へ流下して海に達しているよ。



火山地形分類データの3D表示 高さ2倍誇張





噴火の概要

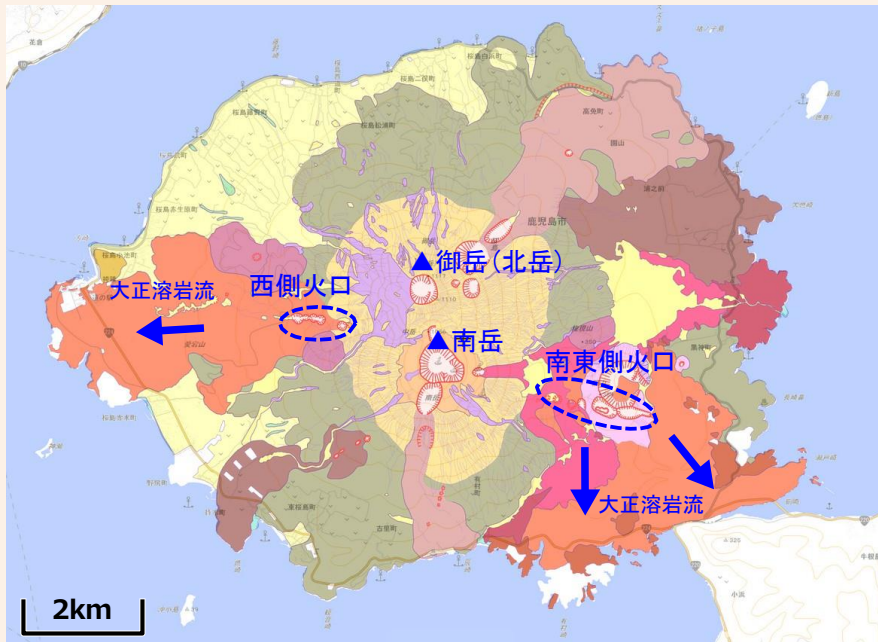
発生日時 1914年1月12日

噴火位置 南岳西および東山腹

被害状況 午前10時すぎに西側中腹から噴火、約10分後には南東側中腹からも噴火。13日午後8時頃から溶岩流出開始。西方の溶岩は海に達し沖合の烏島を飲み込む。南東方の溶岩は脇、有村、瀬戸を埋没し、1月29日に瀬戸海峡を閉塞。死者58名、負傷者 112名、噴火による埋没・全焼家屋約2,140戸。

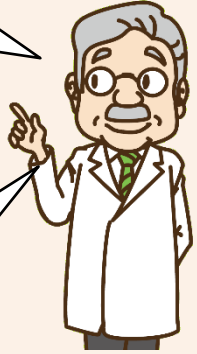
被害状況は気象庁ホームページによる。

火口位置 火山地形分類データ(1989年調査)に追記

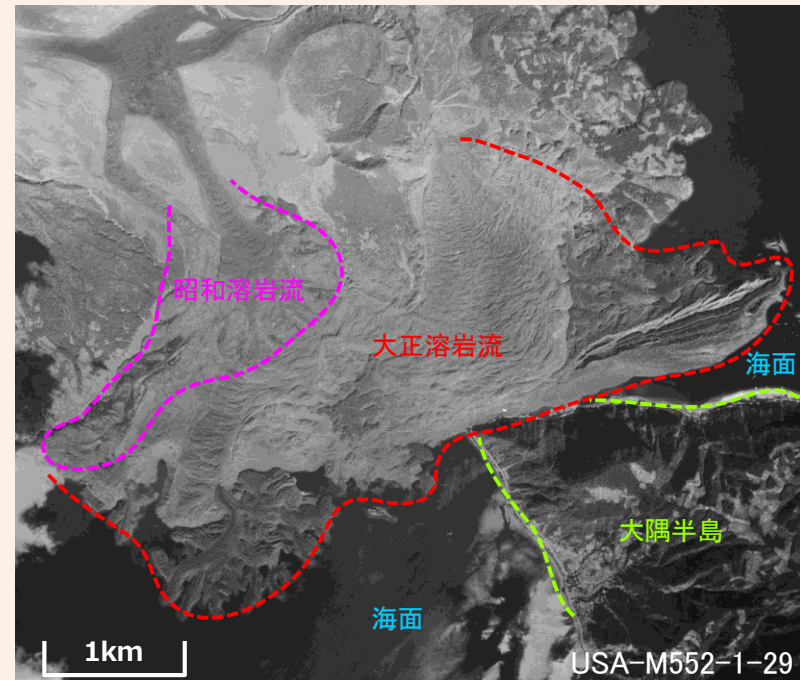


大正時代に起きた大きな噴火で、溶岩の流出も伴い、桜島の南東側が大隅半島とつながったんだ。

噴火の最中にマグニチュード7.1の地震も起きて全壊家屋約120戸などの被害があったんだ。地震の際には小さな津波もあったんだ。



昭和噴火(1946年)後の空中写真

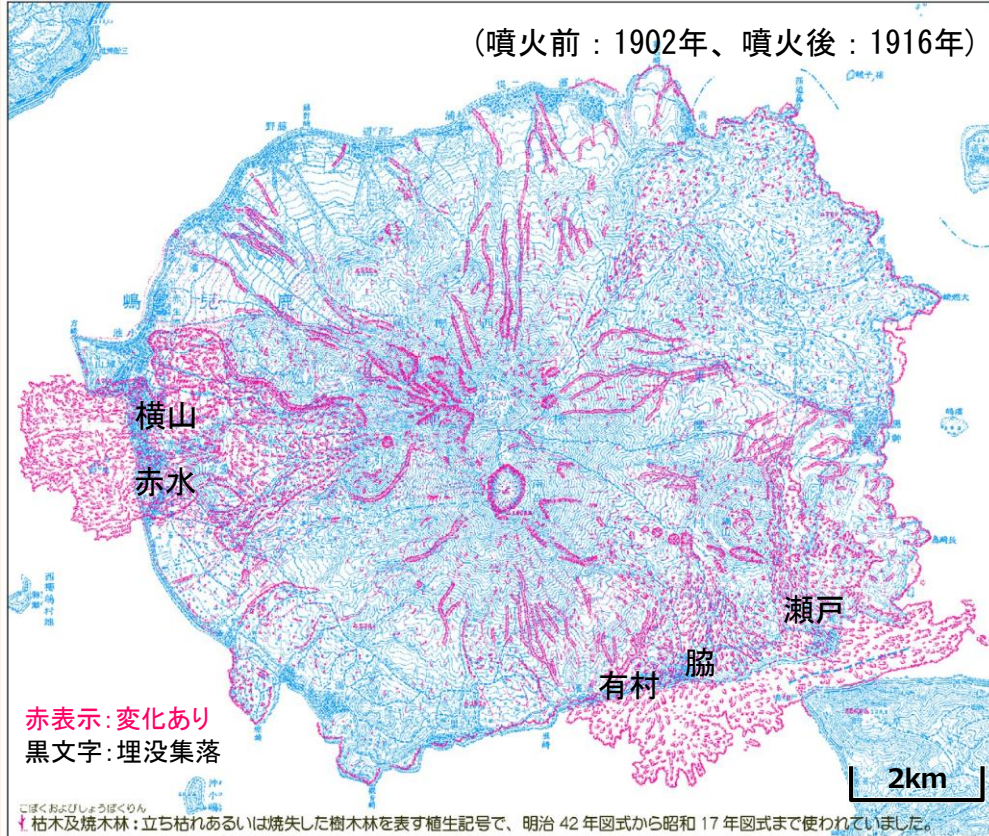


1947年10月13日撮影



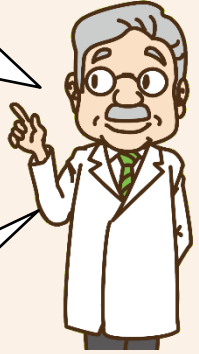
大正噴火前後の地形図比較図

(噴火前：1902年、噴火後：1916年)



大正噴火前後の2時期の地形図を比べてみると、噴火により桜島が大隅半島と陸続きになり、西側に流れた溶岩は沖合の鳥島を覆ってしまったようすが分かるね。

この噴火による被害は甚大で、この惨状を後世に伝えるべく多くの災害伝承碑が建てられているよ。



自然災害伝承碑



①鳥島この下に(赤水)

鳥島は高さ約20メートル周囲約500メートルの、玄武岩質岩石の島であった。大正3年(1914)1月13日、桜島西腹から流出した溶岩は18日にこの島を埋没させた。ここに碑を建ててその跡を示す。



②桜島爆発記念(有村)

大正3年(1914)、天地を砕く大鳴動とともに桜島は凄惨な大爆発を始め、島民はあわてて自分の船や救援船で対岸に避難した。噴火のてん末を記録し、後世に伝えたい。

